

決算説明会

2013年3月期第1四半期

2012年7月31日
ミネベア株式会社

円高、人件費上昇の中、タイ大洪水による
 サプライチェーン混乱からの回復が継続
 通期計画の達成に向けて、順調なスタートを切った

(百万円)	2012年3月期		2013年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	64,802	62,193	68,621	+5.9%	+10.3%
営業利益	2,303	1,695	3,693	+60.4%	2.2倍
経常利益	1,870	1,142	3,368	+80.1%	2.9倍
四半期純利益	668	※ 6,208	1,718	2.6倍	※ -72.3%
一株当たり 四半期純利益(円)	1.76	※ 16.40	4.57	2.6倍	※ -72.1%

為替レート	12/3期1Q	12/3期4Q	13/3期1Q
US\$	82.04円	78.27円	80.77円
ユーロ	118.54円	103.28円	104.89円
タイバーツ	2.72円	2.53円	2.60円
人民元	12.57円	12.39円	12.76円

※2012年3月期4Qの四半期純利益は、タイ洪水保険金収入96億円や災害による損失59億円、税還付16億円などの特殊要因を含む

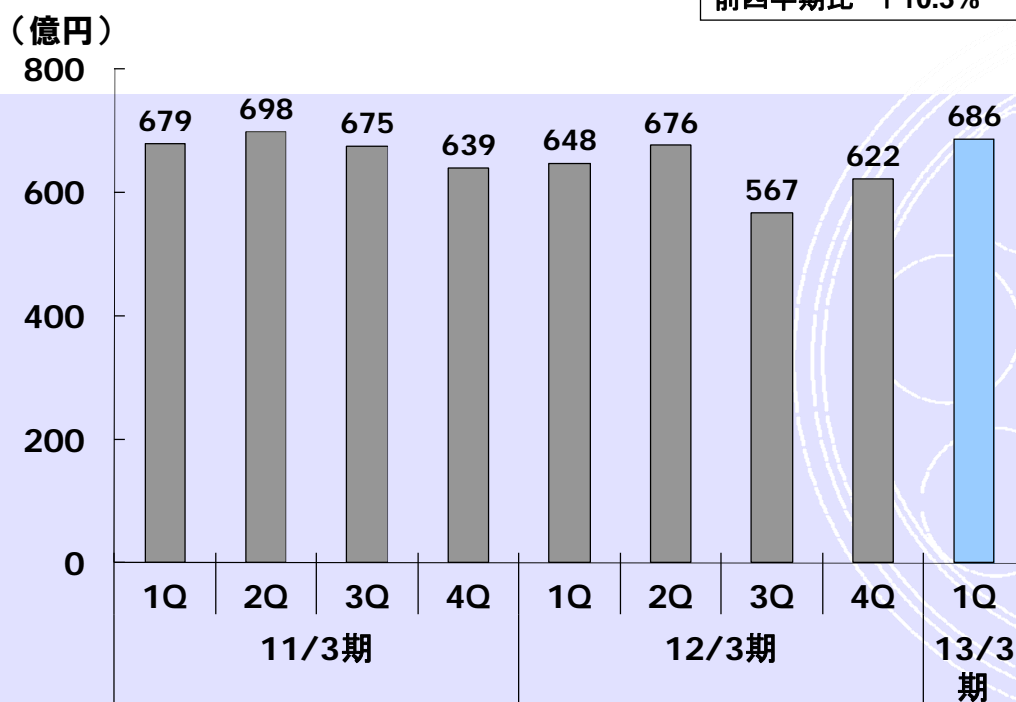
2012年7月31日

1

2013年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は前年同期比で+5.9%増、前四半期比で10.3%増の686億2,100万円でした。営業利益は、円高やタイの最低賃金上昇にもかかわらず、東日本大震災、タイ大洪水によるサプライチェーン混乱からの回復が進み、前年同期比で+60.4%、前四半期比で2.2倍の36億9,300万円となりました。

為替の影響は、特に対ユーロでの円高の進展により前年同期と比べ売上高でマイナス22億円、営業利益でマイナス2億円の影響がありました。対前四半期では売上高でプラス14億円、営業利益でマイナス1億円の影響があったと推計しています。

前年同期比 +5.9%
前四半期比 +10.3%



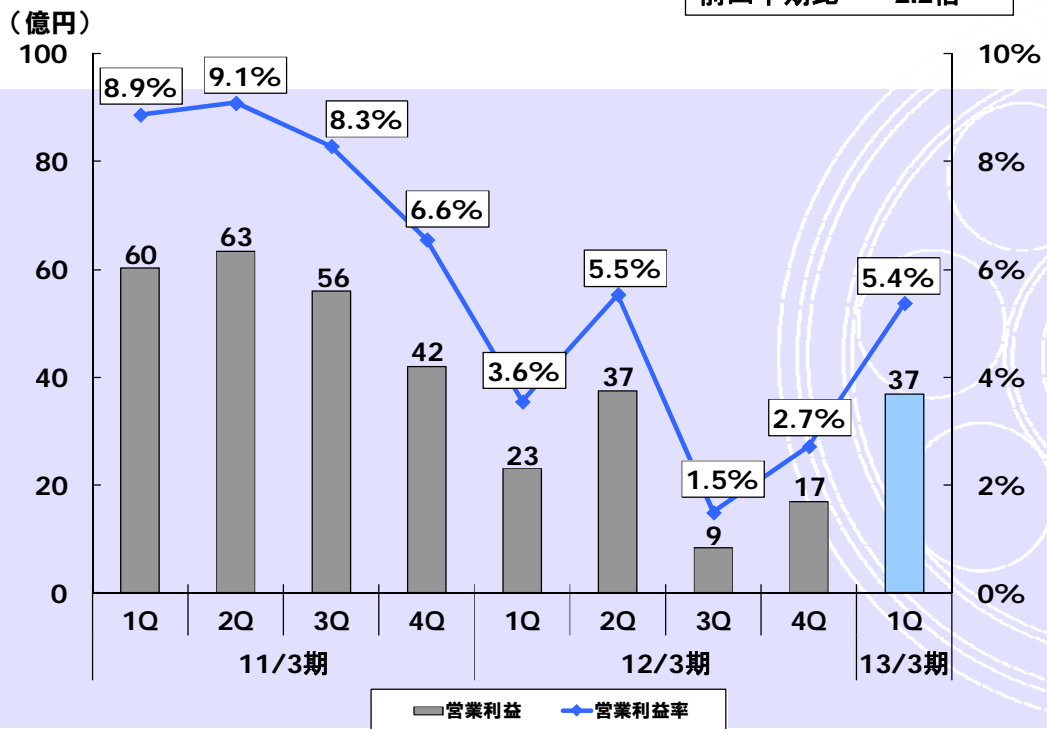
2012年7月31日

2

第1四半期の売上高は、タイ大洪水等からの回復に伴い、前四半期比10.3%増の686億円となりました。

第2四半期以降も、タイ洪水からの回復継続、LEDバックライト事業などでの売上の増加に伴い、増収の継続を見込んでいます。

前年同期比 +60.4%
前四半期比 2.2倍



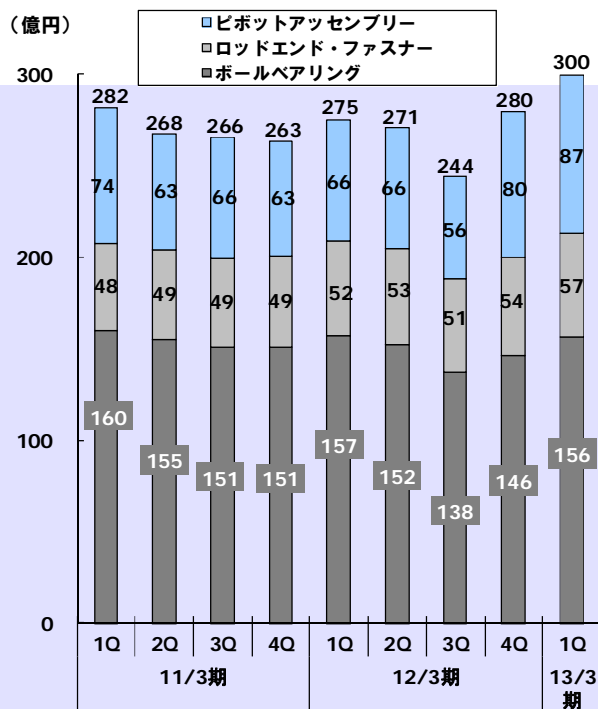
2012年7月31日

3

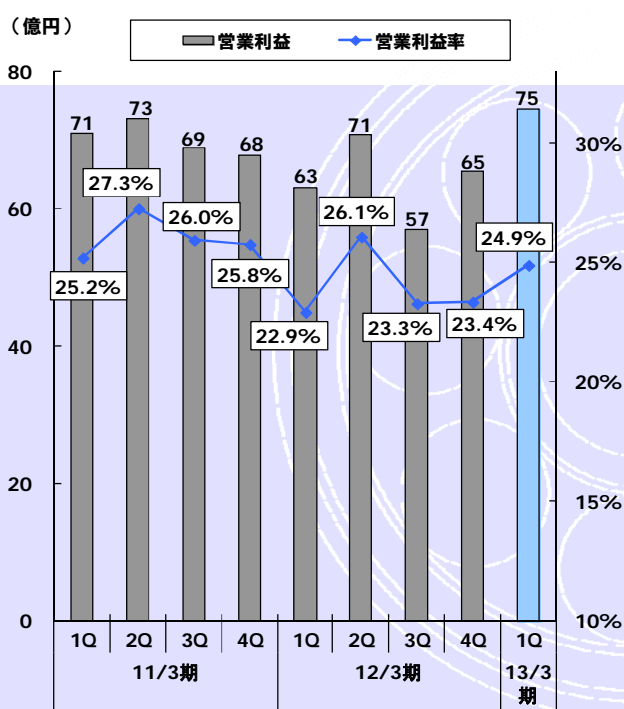
第1四半期の営業利益は、前四半期比2.2倍の37億円、営業利益率は2.7ポイント改善し、5.4%でした。

第1四半期の営業利益は月を追うごとに増加しています。第2四半以降の営業利益も、売上増加による稼働率上昇や様々なコスト削減策の進展などによる収益性の更なる改善が見込まれ、大幅な回復を見込んでいます。

売上高



営業利益



2012年7月31日

4

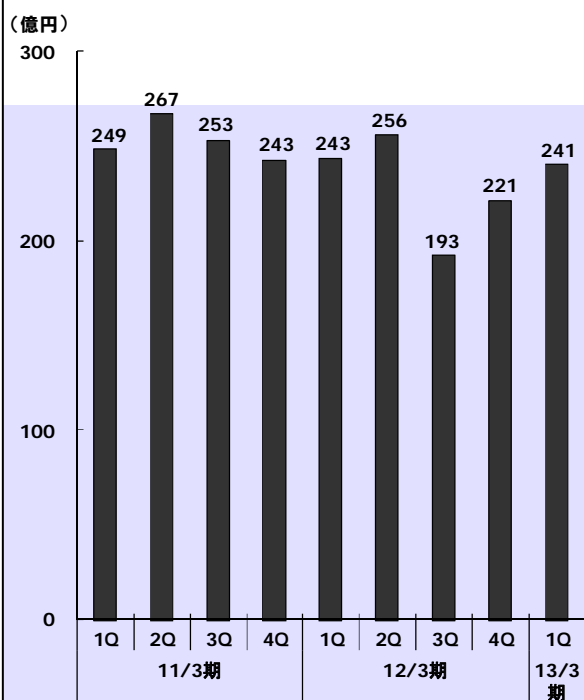
次に、各事業セグメントの状況ですが、機械加工品事業セグメントの第1四半期の売上高は、前四半期比7.0%増の300億円、営業利益は前四半期比14.1%増の75億円となりました。営業利益率は、1.5ポイント上昇し、24.9%となりました。

製品別では、ピボットアッセンブリーの売上高は、タイ洪水による競合他社の被災により、引続き高い水準のシェアを維持したこと、HDD市況が6月に入り予想以上の在庫調整があったものの4-5月に過去最高の水準での出荷を行ったことにより、前四半期比8.8%増となり、稼働率の上昇に伴い、大幅な増益となりました。HDD市況は6月以降にHDDメーカー各社の生産計画の調整があったため、7-9月期は4-6月期に比べて横ばいが予想されます。しかし、10-12月期には出荷数量が再び上昇トレンドに戻ると見えています。

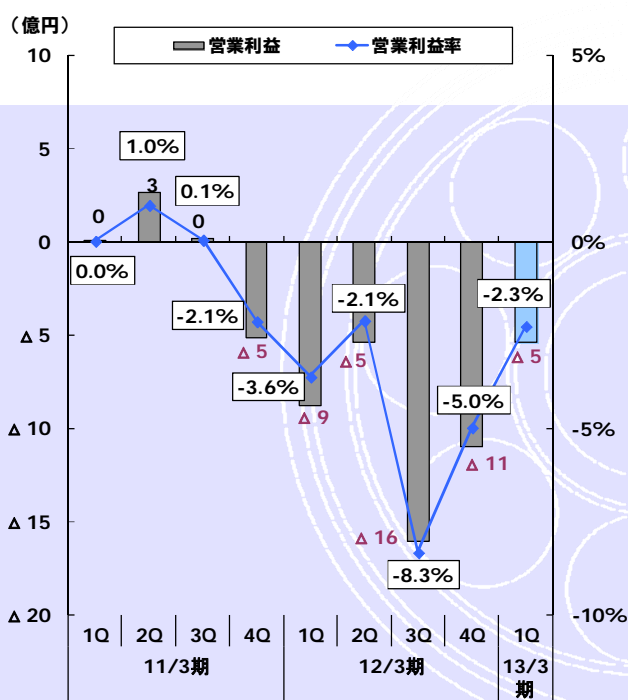
ボールベアリングの売上高は、前四半期比6.8%増の156億円となりました。世界経済の回復に伴いファンモーター向けや自動車向けを中心に外販数量についても順調に増加しました。

ロッドエンド・ファスナーの売上は、航空機需要の継続的な盛り上がりに伴う販売の増加により、前四半期比5.6%増の57億円となりました。今後も、中期的に航空機需要は堅調に推移する見込みであり、タイ工場での生産能力の拡大を通じて拡販体制の整備とコスト削減を進め、利益の積み上げに取り組んでいきます。

売上高



営業利益



2012年7月31日

5

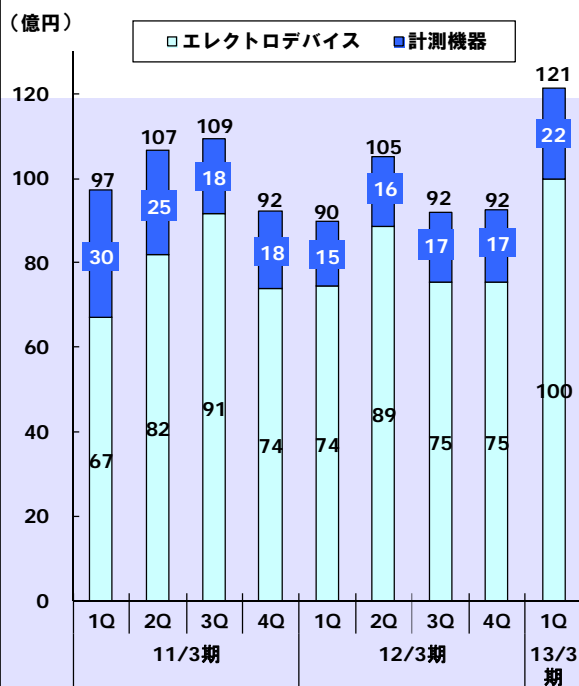
回転機器事業セグメントは、第1四半期にはタイ大洪水からの回復が進み、HDDスピンドルモーターを中心に販売が増加したため、売上高は前四半期比8.9%増の241億円となりました。営業損益は赤字幅が6億円縮小し5億円の損失、営業利益率は2.7ポイント改善しマイナス2.3%となりました。なお、HDDスピンドルモーターはタイ洪水により被災した2工場での異常稼働損を8億円、「災害による損失」として特別損失に計上しました。

タイ洪水により被災したHDDスピンドルモーターの部品生産2工場のナワナコン工場、ロジャナ工場は9月に完全復旧の見込みです。HDD市況は、6月以降にHDDメーカー各社の生産計画の調整があったため、7-9月期は4-6月期に比べて横ばいが予想されます。しかし、10-12月期には出荷数量が再び上昇トレンドに戻ると見えています。また、当社の得意とするサーバー向けや7ミリ厚2.5インチHDD向けなどのハイエンド品の需要は堅調に推移する見込みです。ベースプレートの内製能力の完全復旧と生産効率の向上に加え、外注生産能力を活用しながら販売数量の拡大に注力しつつ、製品ミックスの改善効果を上乗せすることで、第2四半期での黒字化とその後の収益貢献を目指していきます。

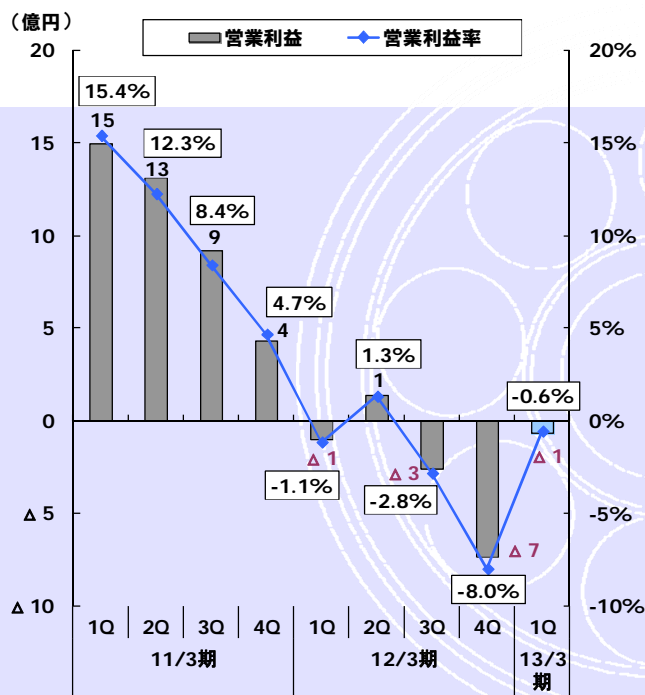
情報モーターは、タイ洪水によるサプライチェーン混乱に起因してファンモーターの売上低迷が継続しており、また、縮小均衡策を講じている振動モーター等の損益は、月を追うごとに改善は見られるものの、赤字に留まりました。カンボジア工場への生産移転の推進に加え、生産効率の改善や固定費削減への取り組みを通じて、収益改善に努めていきます。

以上の取り組みを通じて、回転機器セグメント全体での第2四半期での黒字化とその後の収益貢献を目指していきます。

売上高



営業利益



2012年7月31日

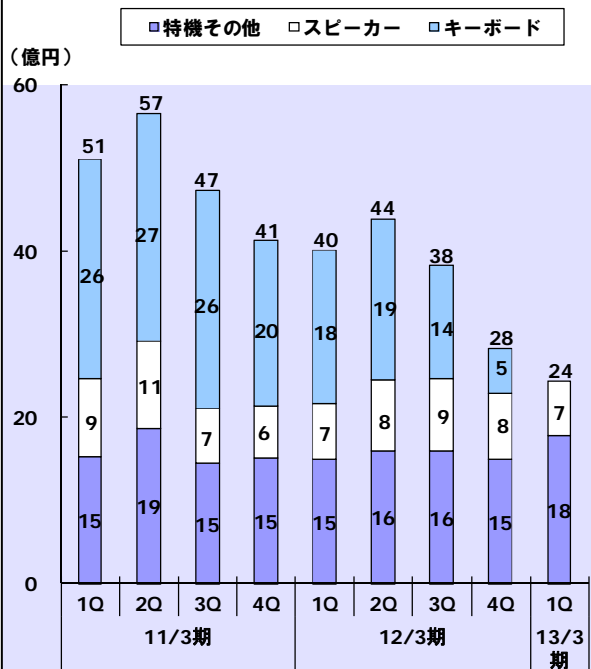
6

第1四半期の電子機器事業セグメントの売上高は、エレクトロデバイスの販売急拡大により、前四半期比31.2%増の121億円となりました。営業利益は、LEDバックライト事業が5月から黒字化したため6億円改善し1億円の赤字となりました。営業利益率は7.4ポイント上昇し、マイナス0.6%となりました。

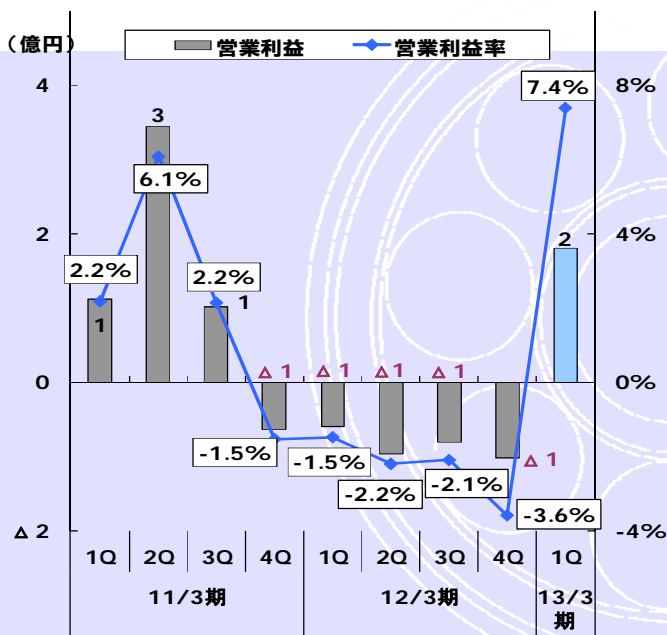
エレクトロデバイスの売上高は前四半期比33.3%増の100億円となりました。タブレットPC向けLEDバックライトが4月の出荷開始以降、順調に出荷数量を伸ばし、足元ではフル生産となっています。スマートフォンの次世代モデル向けLEDバックライトは、6月末から生産を開始し、現在、生産数量の引き上げに努めており、第2四半期以降に大幅な収益貢献を見込んでいます。

計測機器では、タイ洪水以降の自動車生産の復旧と顧客の拡がりに伴い販売が拡大し、売上高は前四半期比29.4%増となり、利益も堅調に推移しました。

売上高

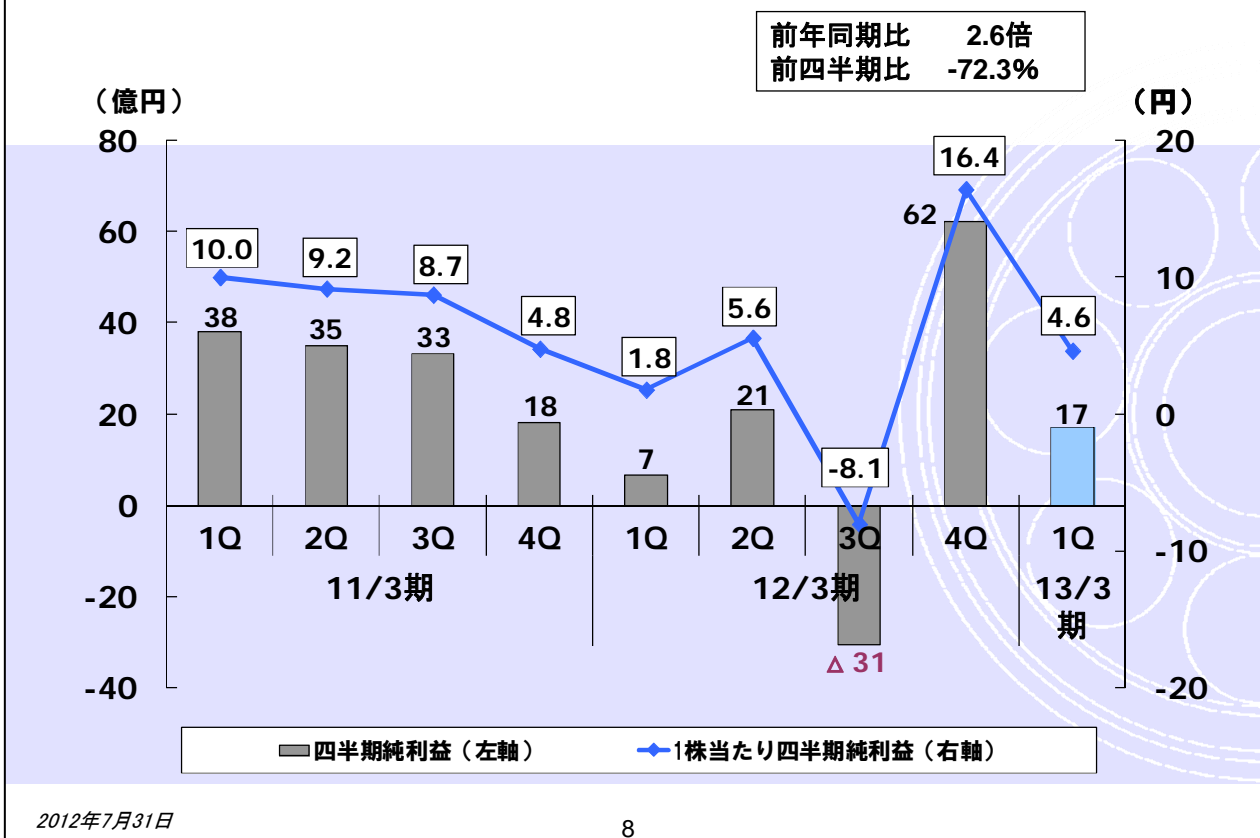


営業利益

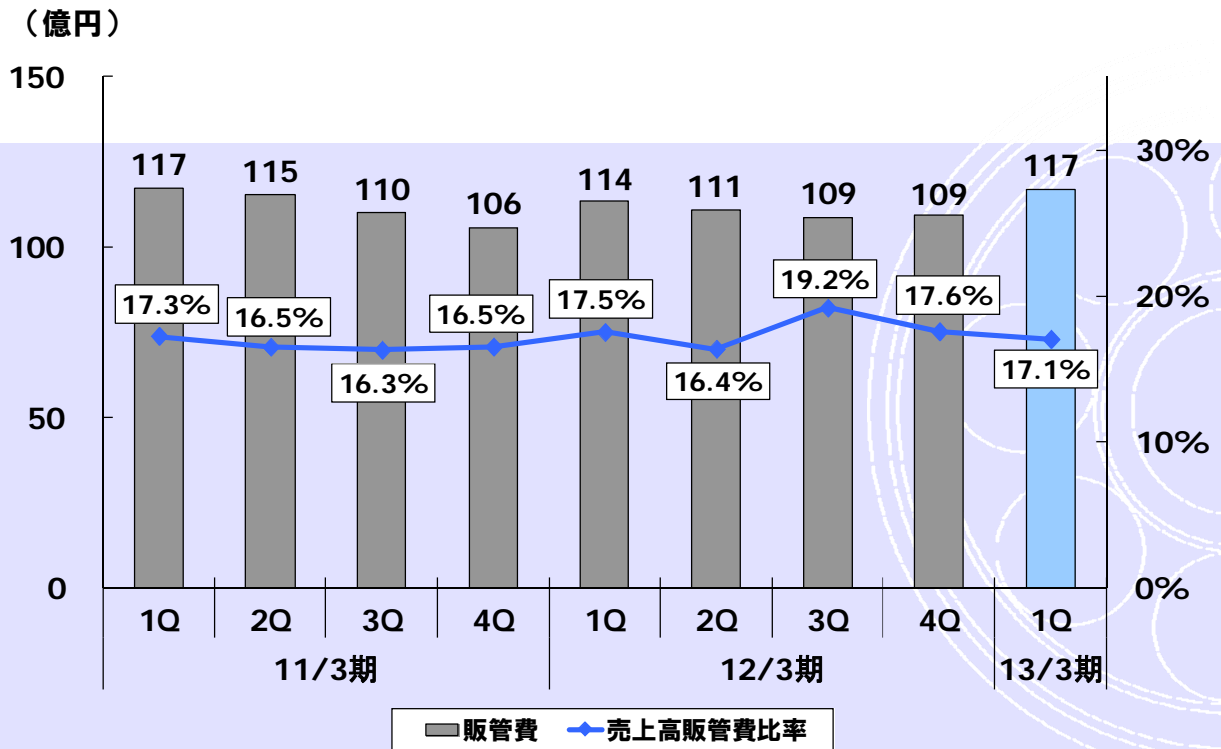


2012年7月31日

第1四半期のその他事業セグメントでは、不採算であった完成品キーボード事業からの撤退を前期に実施したことにより、売上高は24億円と前四半期比マイナス13.4%減少しましたが、営業利益は2億円と黒字転換しました。



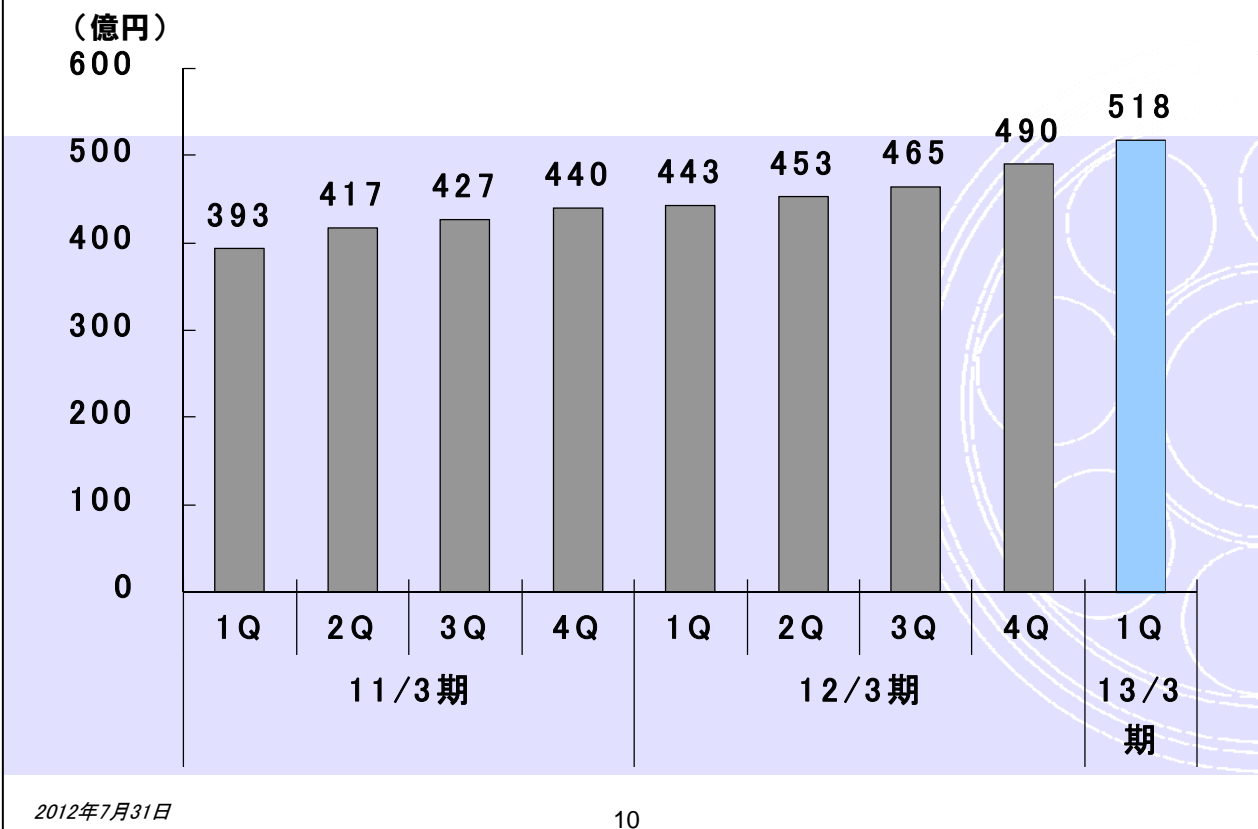
第1四半期の純利益は、前四半期比72.3%減の17億円と大幅に減少しました。前四半期に特別利益としてタイ大洪水の保険金収入が96億円あった一方で、当四半期ではこうした大きな額の特別利益が計上されなかったことが主な要因です。1株当たり純利益は、4.6円となりました。



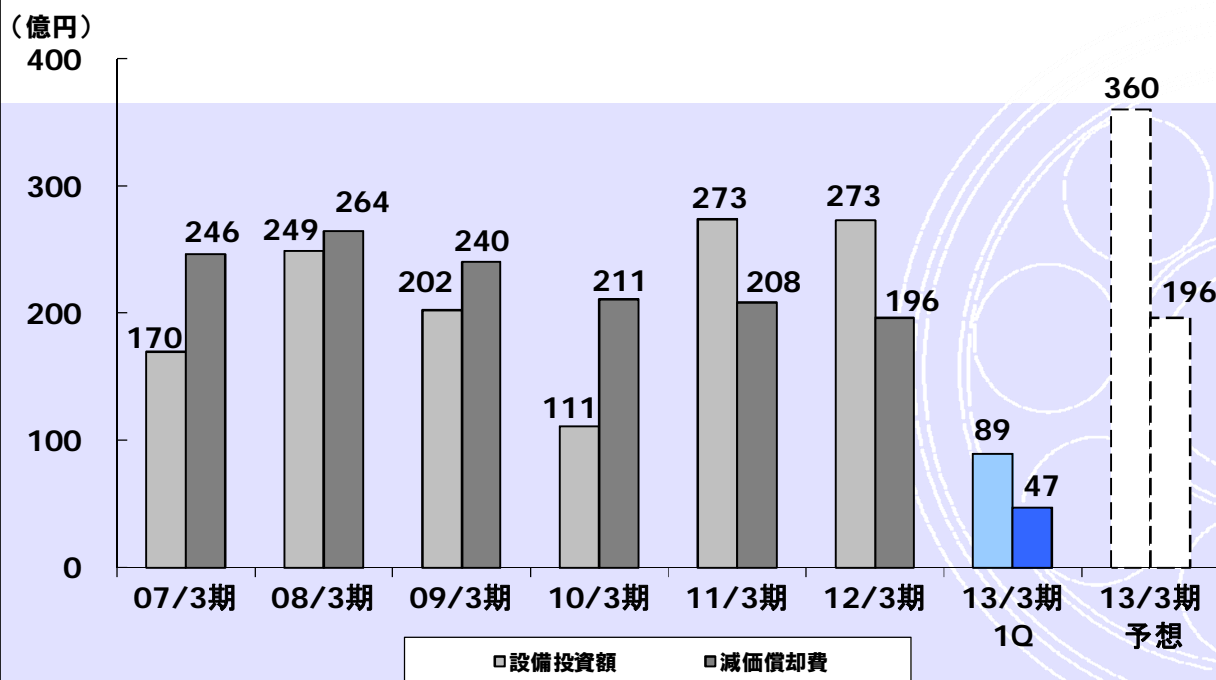
2012年7月31日

9

販管費は、前四半期比8億円増加の117億円となりましたが、売上増加により売上高販管費比率は前四半期比で0.5ポイント低下し17.1%となりました。



第1四半期期末のたな卸資産は28億円増加しました。このうち12億円は、モアテック社買収による増加です。また、売り上げ増加に伴う在庫増加もありました。



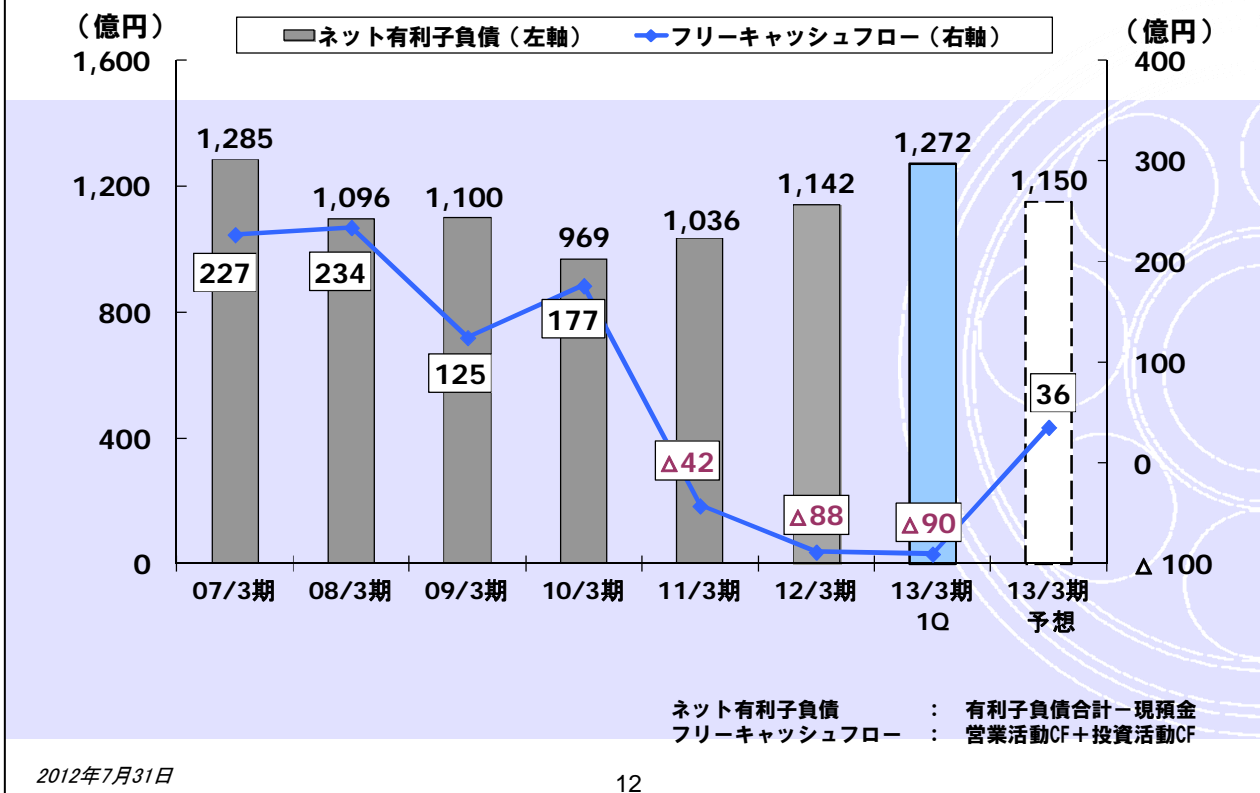
※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2012年7月31日

11

第1四半期の設備投資は89億円、減価償却費は47億円でした。

今期は、洪水からの復旧投資が本格化することに加えて、成長分野における生産能力増強を行うため、360億円の設備投資を計画しています。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第1四半期末におけるネット有利子負債は、1,272億円となり、前四半期末比130億円の増加となりました。これは、LEDバックライトの販売・生産の急拡大等に伴う運転資本の増加、HDD市況変動によるHDD向け部品在庫の増加、従業員向けインセンティブプランとして導入した第2次E-Shipの開始に伴い、従業員持株会信託による22億円の借入れを行ったことに加えて、成長分野での能力増強などの資金需要が増加したためです。フリーキャッシュフローは90億円のマイナスとなりました。

今期は、利益の大幅な改善が見込めるため、フリーキャッシュフローは36億円のプラスに転じる見込みです。

業績予想は変更なし

(百万円)	2012年3月期	2013年3月期予想			前年比 伸び率
	通期	上半期	下半期	通期	
売上高	251,358	148,100	163,900	312,000	+24.1%
営業利益	8,599	9,400	13,900	23,300	2.7倍
経常利益	6,499	8,200	12,600	20,800	3.2倍
純利益	5,922	5,600	6,900	12,500	2.1倍
一株当たり 純利益(円)	15.63	14.97	18.53	33.50	2.1倍

為替レート	12/3期	13/3期想定
US\$	79.07円	77.00円
ユーロ	110.20円	103.00円
タイバツ	2.59円	2.50円
人民元	12.33円	12.20円

2012年7月31日

13

これは、今期2013年3月期の業績予想をまとめたものです。

第1四半期は計画に対して順調なスタートを切れたものと認識しており、5月に発表いたしました期初予想からの変更はありません。東日本大震災やタイ大洪水などの自然災害、レアアースの高騰といったマイナス影響が今期は無くなることに加えて、ピボットアッセンブリーやスピンドルモーターといったHDD向け部品や、LEDバックライトの売上が大きく伸びることにより、今期は大幅な業績改善を見込んでいます。

HDD市況は、6月以降にHDDメーカー各社の生産計画の調整があったため、7-9月期は4-6月期に比べて横ばいが予想されます。しかし、10-12月期には出荷数量が再び上昇トレンドに戻ると見えます。

しかしながら、欧州債務危機の新興国市場、北米市場等への波及など不透明な要因もあり、市況を注視しつつ対応する一方、継続的なコスト削減に取り組んでいきます。

LEDバックライト事業の売上急上昇

第2四半期以降でさらなる収益貢献を見込む

タブレットPC向けLEDバックライト

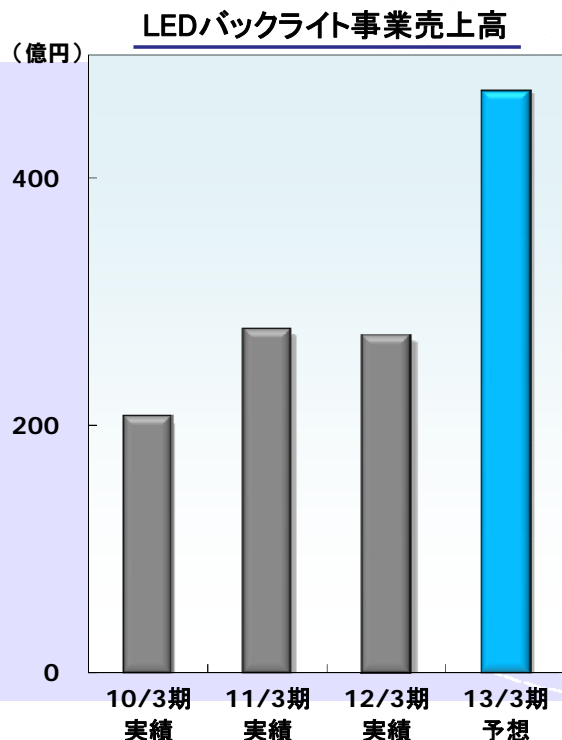
4月末より出荷スタート。
5月、6月と生産数量が増加、
足元ではフル生産の状況

スマートフォン向けLEDバックライト

スマートフォン新モデル向けについては、
6月末より出荷スタート。現在、増産に
注力中

音楽携帯プレーヤー向け LEDバックライト

7月より出荷スタート。
8月、9月へと大幅に増産へ



2012年7月31日

14

LEDバックライト事業では、成長するタブレットPC市場、スマートフォン市場向けの大型新製品や携帯音楽プレーヤー向け製品の出荷開始により、売上の急成長を見込んでいます。

具体的には、4月にタブレットPC向けLEDバックライトの出荷を開始以降、5月、6月と順調に生産数量を伸ばし、足元ではフル生産となっています。

スマートフォンの新モデル向けLEDバックライトは、6月末から生産・出荷を開始し、現在、生産数量の大幅な引き上げに努めています。

携帯音楽プレーヤー向けLEDバックライトも、7月から出荷を開始し、今後大幅な数量増が見込まれます。

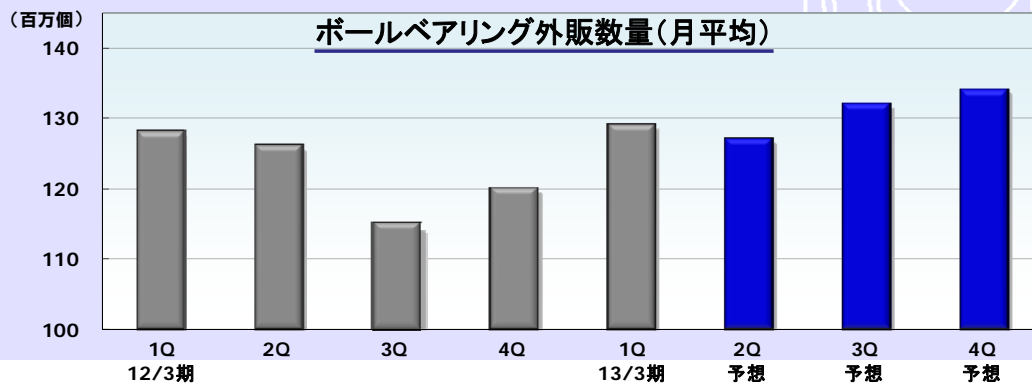
前期は、震災やタイ大洪水によるサプライチェーン混乱の影響を受けて、初めての赤字となりましたが、今期はグラフにあるような売上の大幅な増加により、大きな収益貢献を見込んでいます。

ボールベアリング販売数量

- タイ大洪水による需要減から順調に回復中
- 2Qでは、ピボット向けが横ばいに留まることにより、余裕が生じる生産能力を他用途向けに振り向け、さらに拡販
- 足元では、自動車向け、ファンモーター向け等の需要が堅調
- 中径サイズ・低価格量産品についても計画通り、来年始めから出荷開始予定

ピボット販売数量

- タイ大洪水後は、シェア上昇とHDD市場の回復で大きく増加
- 6月以降のHDD市場の在庫調整で、第2四半期は横ばいに留まるものの、第3四半期以降はHDD業界全体の生産能力回復により、再び増加トレンドへ戻る見込み
- 100%シェアを持つ7mm厚2.5インチHDD向けなどの高付加価値製品の増加により、収益性の向上を見込む



2012年7月31日

15

次に、ボールベアリングとピボットの生産・販売状況について、説明します。

ボールベアリングの外部販売数量は、グラフにあるように2011年第3四半期のタイ大洪水による需要減から、現在は順調に回復中です。6月以降のHDD市場の在庫調整により、社内使用のピボット向けボールベアリングが横ばいに留まるため、余裕が生じる生産能力を他用途に振り向け、さらなる拡販に努めていきます。足元では、自動車向け、ファンモーター向け等の需要が堅調に推移しています。なお、中径サイズ・低価格量産品も、計画通り、来年始めから出荷を開始していきます。

ピボットの販売数量は、タイ大洪水後はシェア上昇とHDD市場の回復で大きく増加しました。6月以降のHDD市場の在庫調整で、第2四半期は横ばいに留まるものの、第3四半期以降はHDD業界全体の生産能力回復により、再び増加トレンドへ戻る見込みです。加えて、100%シェアを持つ7ミリ厚2.5インチHDD向けピボットなどの高付加価値製品の増加により、収益性の向上を見込んでいます。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。